

令和6年度

**教育委員会 点検と評価
報告書**

加東市教育委員会

目 次

1	本報告書について	1
2	教育委員会の活動及び運営状況	
	（1）教育委員会委員	1
	（2）教育委員会の開催状況及び付議された議案等	1
	（3）教育委員会以外の主な活動状況	5
3	基本理念と施策体系	6
4	令和6年度 主要事業の点検と評価	9
	基本方針Ⅰ 未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進	
	～学びの連続性を大切にした教育の充実～	
	基本的方向（1）「確かな学力」の育成	10
	基本的方向（2）夢や志を持ち挑戦する力の育成	14
	基本的方向（3）「豊かな心」の育成	17
	基本的方向（4）「健やかな体」の育成	21
	基本的方向（5）インクルーシブ教育の充実	25
	基本的方向（6）幼児教育の充実	27
	基本方針Ⅱ 子どもの学びを支える教育環境の整備	
	基本的方向（1）学校の組織力及び教職員の資質能力の向上	30
	基本的方向（2）家庭・地域の力を生かした教育の充実	34
	基本的方向（3）学校施設の整備と就学支援	40
	基本方針Ⅲ 人生100年時代の到来を見すえた生涯学習の推進	
	基本的方向（1）多様な学習機会の充実	43
	基本的方向（2）人権教育・啓発の推進	46
	基本的方向（3）文化芸術の振興	48
	基本的方向（4）文化財の保護と活用・継承	50
	基本的方向（5）生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進	52
	基本的方向（6）社会教育施設及び社会体育施設の効率的な管理・運営	55
	基本的方向（7）図書館サービスの充実	56
5	評価委員所見	58

※ 「9 実施計画と指標」において、「小学校」には「義務教育学校前期課程」を、「中学校」には「義務教育学校後期課程」を含みます。
 また、取組の内容や指標についても、対象としている小学校または中学校の学年には、義務教育学校における該当する学年を含みます。
 (例：「児童生徒アンケート(市) 対象：小6、中3」には、義務教育学校6年生、9年生を含みます。)

1 本報告書について

教育委員会が行う事務の管理及び執行状況については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条により、毎年、点検及び評価を行い、その内容を議会に提出し、公表することが義務付けられています。

また、この点検及び評価は、教育委員会の権限に属する事務が対象となりますが、この点検及び評価については、「第 3 期加東市教育振興基本計画（以下、「第 3 期基本計画」という。）」の評価・見直しとしても位置付けており、第 3 期基本計画に基づく取組についても点検及び評価を実施することとします。

なお、点検及び評価については、自己評価を行った上で、外部有識者の意見聴取会を実施しました。外部有識者の所見は、本報告書に記載しています。

2 教育委員会の活動及び運営状況

（1）教育委員会委員

区 分	氏 名	任 期
教 育 長	藤 原 路 寛	令和 6 年 5 月 27 日～令和 9 年 5 月 26 日
	藤 原 哲 史	令和 4 年 6 月 28 日～令和 6 年 5 月 26 日
教育長職務代理者	田 中 寿 一	令和 3 年 5 月 27 日～令和 7 年 5 月 26 日
委 員	後 藤 純 子	令和 2 年 5 月 27 日～令和 6 年 5 月 26 日 令和 6 年 5 月 27 日～令和 10 年 5 月 26 日
	岸 本 恵 一	令和 5 年 5 月 27 日～令和 9 年 5 月 26 日
	別 惣 裕美子	令和 4 年 6 月 28 日～令和 8 年 5 月 26 日

（2）教育委員会の開催状況及び付議された議案等

○第 1 回定例教育委員会（4 月 23 日）

番 号	案 件 名
第 1 号議案	社学園の校歌について
第 2 号議案	教育委員会附属機関等の委員委嘱の件
協議事項 1	加東市体育施設条例の一部改正について
そ の 他	令和 5 年度教育委員会点検と評価
	令和 6 年度新規主要事業について
	附属機関等委員の委嘱及び解嘱について
	加東市小中学校給食費支援金交付要綱の一部改正について
	小中一貫校整備状況について
	加東市スクールロイヤー配置事業実施要領
	令和 6 年度学習検定（「漢検」「算検」）チャレンジ事業実施要綱
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 2 件

○第2回定例教育委員会（5月27日）

番 号	案 件 名
第3号議案	令和7年度使用加東市立学校における教科用図書の採択要領の制定について
第4号議案	加東市特別支援教育就学奨励費に関する規則制定の件
協議事項2	加東市社地域小中一貫校建設工事変更請負契約締結について
協議事項3	加東市立社中学校校舎長寿命化改修工事請負契約締結について
協議事項4	加東市立学校設置に関する条例の一部改正について
そ の 他	令和6年度加東市一般会計補正予算（第1号）について
	小中一貫校整備状況について
	滝野中学校及び滝野地域小中一貫校新制服・体操服等について
	家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
	加東市社地域新設アフタースクール建設工事契約締結について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可2件

○第3回定例教育委員会（6月25日）

番 号	案 件 名
第5号議案	教育委員会附属機関等委員の委嘱の件
第6号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の無料開放について
協議事項5	生徒指導報告について
そ の 他	小中一貫校整備状況について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可16件

○臨時教育委員会（7月18日）

番 号	案 件 名
第7号議案	令和7年度使用教科用図書の採択の件

○第4回定例教育委員会（7月29日）

番 号	案 件 名
第8号議案	加東市滝野公民館の臨時休館の件
第9号議案	加東市滝野複合施設の臨時開館の件
第10号議案	加東市地域交流センターの臨時休館の件
第11号議案	加東市立図書館協議会委員の任命の件
そ の 他	小中一貫校整備状況について

	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 10 件
--	----------------------------

○第 5 回定例教育委員会（8 月 29 日）

番 号	案 件 名
第 12 号議案	教育委員会附属機関等の委員委嘱の件
協議事項 6	令和 5 年度教育に関する決算について
協議事項 7	加東市社地域小中一貫校既存校舎棟ほか一般備品購入について
そ の 他	9 月補正予算について
	附属機関等委員の委嘱について
	加東市立認定こども園条例の一部改正及び加東市立へき地保育所条例の廃止について
	小中一貫校整備状況について
	滝野地域小中一貫校愛称募集について
	令和 6 年度全国学力・学習状況調査結果について
	不登校児童生徒が相談・指導を受ける民間施設について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 10 件

○第 6 回定例教育委員会（9 月 24 日）

番 号	案 件 名
第 13 号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の無料開放について
第 14 号議案	加東市中央図書館の臨時休館及び加東市滝野図書館の臨時開館の件
第 15 号議案	令和 6 年度加東市中央図書館及び東条図書館の臨時休館日の取り消しの件
第 16 号議案	教育委員会附属機関等の委員委嘱の件
第 17 号議案	教育委員事務局職員の任免の件（非公開）
協議事項 8	加東市立社中学校校舎長寿命化改修工事変更請負契約締結について
そ の 他	9 月補正予算（第 4 号）について
	附属機関等委員の委嘱について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 6 件

○第 7 回定例教育委員会（10 月 30 日）

番 号	案 件 名
第 18 号議案	加東市スクールバス運行に関する要綱の一部を改正する告示制定の件
第 19 号議案	加東市滝野図書館の臨時開館日の取り消しの件

そ の 他	11 月補正予算（第 6 号）について
	加東市社会教育振興費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 9 件

○第 8 回定例教育委員会（11 月 28 日）

番 号	案 件 名
第 20 号議案	滝野地域小中一貫校の愛称を定める件
第 21 号議案	加東市青少年活動助成金交付要綱を廃止する告示の件
そ の 他	12 月補正予算（第 7 号）について
	加東市社・東条放課後児童健全育成施設条例の一部改正について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 2 件

○第 9 回定例教育委員会（12 月 24 日）

番 号	案 件 名
第 22 号議案	加東市立学校設置に関する条例の一部を改正する条例の施行に伴う関係規則の整理に関する規則制定の件
第 23 号議案	加東市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令制定の件
第 24 号議案	加東市立学校の校区外・区域外就学許可基準の変更について
第 25 号議案	加東市学校給食センター規則の一部を改正する規則制定の件
第 26 号議案	加東市立図書館の臨時開館及び臨時休館の件
そ の 他	12 月補正予算（第 8 号）について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 10 件

○第 10 回定例教育委員会（1 月 28 日）

番 号	案 件 名
第 27 号議案	加東市社公民館の臨時開館の件
第 28 号議案	加東市文化芸術賞賜金支給要綱及び加東市教育委員会医療的ケア運営協議会設置要綱の一部を改正する告示制定の件
そ の 他	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 4 件

○第 11 回定例教育委員会（2 月 27 日）

番 号	案 件 名
第 29 号議案	加東市公民館規則等の一部を改正する規則制定の件
第 30 号議案	加東市加古川流域滝野歴史民俗資料館の無料開放について
第 31 号議案	加東市立小中学校、義務教育学校の学校医の解嘱及び委嘱の件

第 32 号議案	加東市立小中学校、義務教育学校の学校歯科医の解嘱及び委嘱の件
第 33 号議案	教育委員会事務局職員の任免の件（非公開）
第 34 号議案	加東市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則制定の件
協議事項 9	加東市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について
協議事項 10	加東市閉校施設条例の制定について
協議事項 11	加東市立学校施設使用条例の一部を改正する条例制定について
協議事項 12	教育に関する予算について
そ の 他	3 月補正予算（第 9 号）について
	加東市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例及び加東市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 7 件

○第 12 回定例教育委員会（3 月 25 日）

番 号	案 件 名
第 35 号議案	加東市立小中学校、義務教育学校の学校薬剤師の解嘱及び委嘱の件
第 36 号議案	加東市立学校に配置する会計年度任用職員に関する規程の一部を改正する訓令制定の件
第 37 号議案	加東市スクールバス運行に関する要綱の一部を改正する告示制定の件
第 38 号議案	加東市鴨川地域等スクールバス運行に関する要綱を廃止する告示制定の件
第 39 号議案	教育委員会附属機関等の委員委嘱の件
第 40 号議案	教育委員会事務局職員の任免の件（非公開）
第 41 号議案	加東市閉校施設規則制定の件
そ の 他	不登校児童生徒が相談・指導を受ける民間施設について
	附属機関等委員の委嘱について
	各課主要行事予定・報告、後援名義の使用許可 6 件

（3）教育委員会以外の主な活動状況

教育委員会委員は、教育委員会への出席以外に次の行事等に出席しました。

○市議会

- ・本会議（教育長）
- ・予算特別委員会、決算特別委員会、各常任委員会等（教育長）

○総合教育会議（第 1 回：7 月 29 日、第 2 回：1 月 21 日）

○学校訪問（6 月 27 日、7 月 1、8、11、16 日）

○各種学校行事

- ・加東市立園入園式（4月5日）
- ・加東市立小学校、中学校、義務教育学校入学式（4月9日）
- ・小学校・義務教育学校PTA総会（4月20日）
- ・中学校PTA総会（4月27日）
- ・学校オープン：6月（10校）、10月（3校）、11月（6校）、1月（7校）
- ・小学校・義務教育学校運動会（9月28日、10月26日）
- ・中学校体育大会（9月14日）
- ・小学校、中学校、義務教育学校発表会
- ・小中学校卒業証書授与式（小学校3月21日、中学校・義務教育学校3月15日）
- ・校長会（教育長）

○各種会議及び研修会

教育長協議会

- ・第1回兵庫県都市教育長協議会（5月29日・朝来市）
- ・第2回兵庫県都市教育長協議会（10月29日・宍粟市）

教育長会議

- ・市町組合教育委員会教育長会議（4月15日・神戸市）
- ・播磨東地区教育長会議（7月10日・加古川市）
- ・播磨東教育長会・地区教育委員会連合会合同研修会（11月21日、明石市）

市町村教育委員会連合会

- ・兵庫県市町村教育委員会連合会理事会・定期総会・研修会（5月16日・姫路市）
- ・全県夏季教育委員会研修会（8月22日～23日・神戸市）
- ・播磨東地区教育委員会連合会理事会・総会・研修会（7月24日・明石市）

研修大会

- ・令和6年度近畿市町村教育委員会研修大会（11月13日・オンライン会議）

○その他行事等

- ・加東市二十歳の集い（1月12日）
- ・各種市内イベント・大会及び研修会等

3 基本理念と施策体系

基本理念を「人間力の育成」とし、「豊かな学びが 新しい自分と地域を育むまち 加東」の実現をめざすため、3つの基本方針に基づいて、16の基本的方向に向かって、それぞれの施策における取組を進めています。

基本理念

「人間力の育成」

～豊かな学びが 新しい自分と地域を育むまち 加東～

【めざす人間像】

- 夢や志を持ち、生涯を通じて学び続け、自立し力強く生きる人
ふるさと
- 加東を愛し、共に支え合いながら、未来を切り拓いていく人

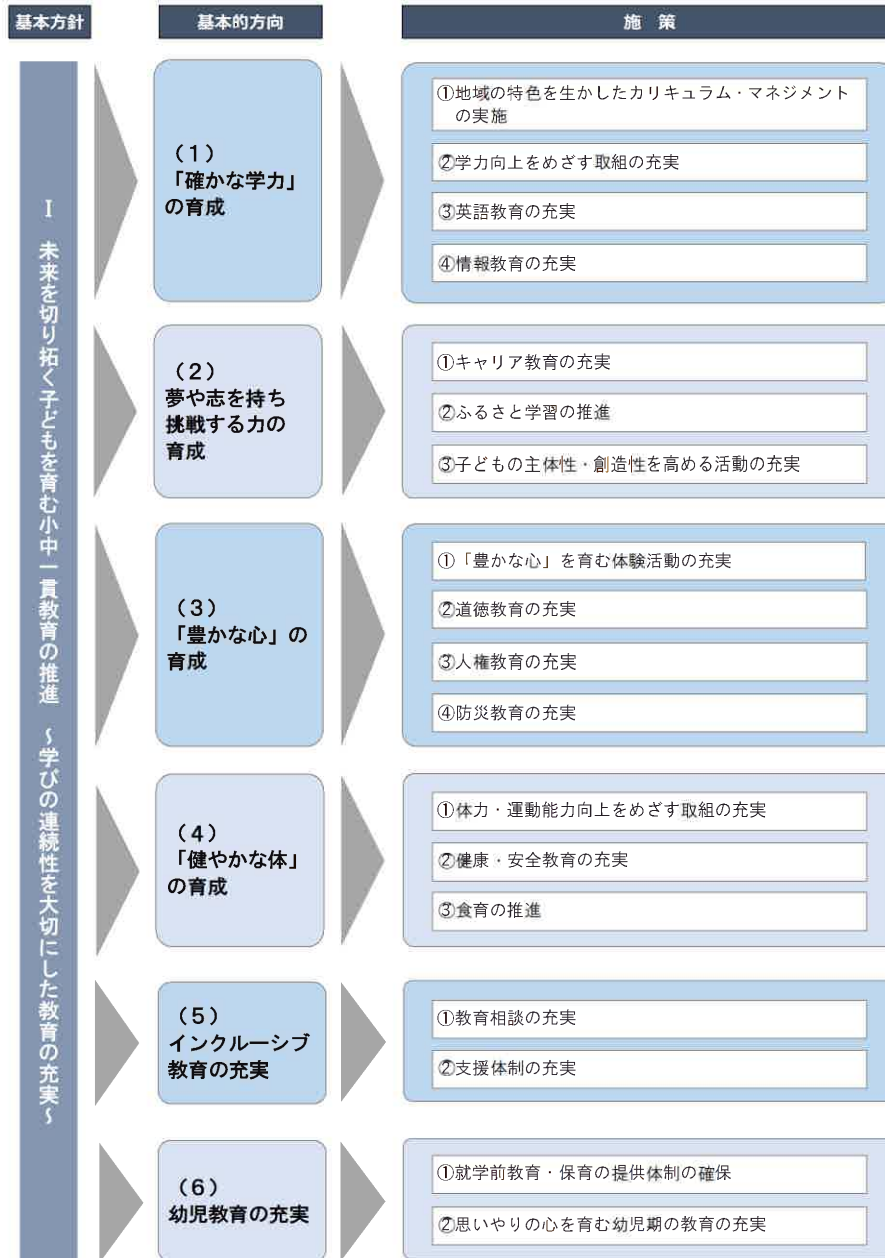
基本方針

基本方針Ⅰ 未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進
～学びの連続性を大切にした教育の充実～

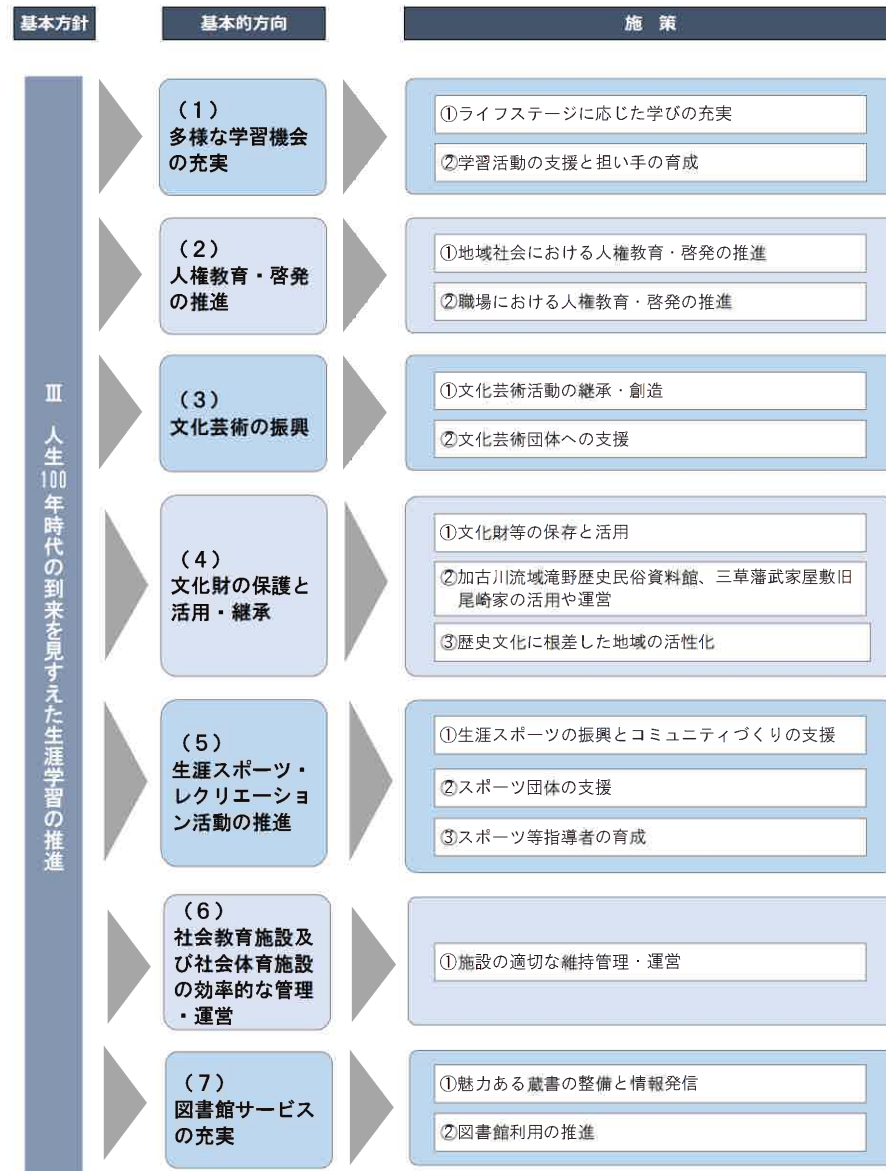
基本方針Ⅱ 子どもの学びを支える教育環境の整備

基本方針Ⅲ 人生100年時代の到来を見すえた生涯学習の推進

施策体系



施策体系



4 令和6年度 主要事業の点検と評価

第3期基本計画の施策ごとに、令和6年度の実施内容について点検し、その成果と課題を明確にするとともに、16の基本的方向ごとに設定した成果指標と取組指標の達成状況から、下記の基準で総合的に評価しました。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた指標の実績数値は黄色に塗りつぶしています。

【基本的方向ごとの総合評価】

総合評価	評価の基準（成果指標の目標値達成状況）
A	すべての成果指標について、当該年度の目標値を達成。
B	当該年度の目標値を達成した成果指標の数が、半数以上。 もしくは、達成数は1以上半数以下であるが、上昇傾向（改善傾向）の成果指標の数が過半数。
C	当該年度の目標値を達成した成果指標の数が、1つ以上半数未満。 もしくは、すべて目標値に到達していないが、上昇傾向（改善傾向）の成果指標の数が半数以上ある。
D	すべての成果指標について、当該年度の目標値を未達成（Cに該当する場合は除く）。

※ 成果指標の目標値を設定していない年度の評価については、取組指標の達成状況により評価する。ただし、取組指標をすべて達成しても「B」、過半数の達成で「C」、それ以外は「D」とする。

※ 成果指標の設定数が1項目の総合評価は、目標値を達成していないが、上昇傾向（改善傾向）にある場合は「B」とする。

なお、成果指標の達成状況は、該当する年度の目標値と比較し、下記のように達成状況を示します。

【成果指標達成状況】

達成状況	評価の基準
☆	該当する年度における目標値を大きく上回った（改善した）。
◎	該当する年度における目標値を達成した。
↗	該当する年度における目標値を達成できなかったが、前年度と比較し上昇傾向（改善傾向）にある。
→	該当する年度における目標値を達成できず、前年度と変わらない。
↘	該当する年度における目標値を達成できず、前年度と比較し減少傾向（悪化傾向）にある。

※ 前年度と比較する場合において、本実施計画年度の初年度は基準値と比較する。

基本方針Ⅰ 未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進 ～学びの連続性を大切にした教育の充実～

基本的方向（１）「確かな学力」の育成

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（１）「確かな学力」の育成				総合評価		B	
●学校の授業がわかると答える児童生徒の割合【肯定的回答】 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		84.0	85.0	86.0	87.0	88.0	
実 績(%)	82.9	93.1	92.2	90.1	88.4		
達成状況		☆	◎	◎	◎		
●学校の授業以外で、平日に１時間以上学習する児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		74.0	75.0	76.0	77.0	78.0	
実 績(%)	73.1	70.4	71.2	59.4	61.8		
達成状況		↘	↗	↘	↗		
●英検３級相当以上の英語力を有する中学３年生の割合 （英語教育実施状況調査（文部科学省）対象：中３）							
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		53.0	56.0	58.0	59.0	60.0	
実 績(%)	46.0	48.3	52.7	47.2	45.9		
達成状況		↗	↗	↘	↘		
●収集した情報を整理して、発表資料を作成することが得意であると答える児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (令和２年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	
実 績(%)	25.6	28.0	26.3	25.6	30.5		
達成状況		↗	↘	↘	↗		

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－（１）－①	担当課	学校教育課・小中一貫教育推進室
施 策	①地域の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施		
取 組	取組１ カリキュラムの実践と公開		
	取組２ カリキュラムの改訂		
	取組３ 乗り入れ授業		
令和６年度の 取組内容	小中一貫教育教科カリキュラムに基づいた授業づくりを促進させるために、引き続き、相互乗り入れ授業や出前授業の成果を教職員へ周知するとともに、グランドデザインやカリキュラムの改訂を行った。		
令和６年度の 取組成果	小中一貫教育教科カリキュラムに基づき、乗り入れ授業や出前授業を行うことで、小学校と中学校の系統性・連続性を意識した授業研究が深まるとともに、多くの６年生児童の中学校生活への不安を取り除く一因とすることができた。		
令和７年度の 課 題	出前授業や乗り入れ授業を充実させるため、滝野地域において小中合同研修を実施し、児童生徒を相互に理解する機会を増やし、発達段階を意識した効果的な指導につなげるようにする。		

施策体系コード	I－（１）－②	担当課	学校教育課
施 策	②学力向上をめざす取組の充実		
取 組	取組１ 授業改善及び教員の指導力向上		
	取組２ 一人１台パソコンを活用した「児童生徒一人ひとりに合った学び」の実現		
	取組３ 学習習慣の定着と家庭学習の充実		
令和６年度の 取組内容	各学校において、全国学力・学習状況調査及び市独自の総合学力調査の結果を分析して、課題を克服するための手立てについて協議した。学力向上プロジェクト委員会では、小中学校の教職員が一つになって、課題を踏まえた授業改善に取り組んだ。滝野南小学校は、「活用・表現力」の育成に向けた国語科授業改善事業（兵庫県教育委員会指定（２年間））を受け、「情報を活用し、表現する子 ～関係づけて考え合う授業をつくる～」をテーマに研究発表を行い、授業改善の成果を発表した。また、東条学園小中学校は、学校経営研究（加東市教育委員会指定（３年間））「主体的に関わり学び合う学園生の育成」をテーマに研究発表を行い、小中一貫教育の成果を発表した。 加東市独自の総合学力調査を小学３年生から中学２年生を対象に実施し、その結果を復習や発展学習に活用した。また、個別最適な学習を推進するために、一人１台パソコンを活用して、復習や発展学習に取り組んだ。また、自主的な家庭学習、学習習慣の定着を図るため、長期休業中のスタディライフや放課後学習を実施した。		
令和６年度の 取組成果	学力向上プロジェクト委員会を３回行い、各校の課題を踏まえた改善点を市全体で共有した。市独自の総合学力調査では、同一母集団の学力向上を示す数値の向上が見られた。引き続き、成果が見られた取組事例を共有して、学力向上に向けた授業改善に取り組むことを確認した。また、児童生徒が自身の苦手分野等を確認して、復習や得意分野を伸ばす発展学習に取り組んだ。特に、「学習検定チャレンジ事業」では、漢字検定・算数検定の検定料を助成し、受験機会を確保することで、児童の学習意欲を喚起し、挑戦する気持ちを高めることに役立った。 長期休業中のスタディライフに参加した児童生徒について、家でも自主学習をしたいと約９割の児童生徒が回答し、家庭学習の意欲向上が見られた。		

令和7年度の課題	全国学力・学習状況調査及び加東市総合学力調査の結果分析を踏まえた授業改善を継続し、児童生徒の学力向上を図る。併せて、各教科の授業が好きになり、楽しみながら学習できる授業づくりについて研究を継続するとともに、「学習検定チャレンジ事業」の対象を中学生に拡大し、挑戦する気持ちを高める。 総合学力調査結果後の個別最適な学びを充実させるため、2月からの補充・発展学習の方法を研究する。また、各学年の学習課題や手立てについては、次の学年に引き継ぎ、系統立てた学習を行う。
----------	--

施策体系コード	I－(1)－③	担当課	学校教育課
施策	③英語教育の充実		
取組	取組1 主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育む活動の推進 取組2 コミュニケーション能力を育む英語授業の充実		
令和6年度の取組内容	「わくわく英語村」では、ALT や友達とのコミュニケーションに重点を置いたアクティビティや作品・発表等の成果物を伴う活動を実施することで、英語で楽しくコミュニケーションが取れるようにした。ジョリーフォニックス指導の充実や小中連携の授業研修、かとう英語ライセンス制度や GTEC Junior の効果的な活用研修を行うことで、授業改善に努め、児童生徒の英語力を高めるよう指導に取り組んだ。積極的に英語検定にチャレンジできるようにするため、年度当初に各自で目標を決め計画的に取り組んだ。		
令和6年度の取組成果	「わくわく英語村」を3日間実施し、延べ54名の中学生が参加した。活動は、オールイングリッシュで臨み、ALT や友達とアクティビティを通して、積極的に英語でコミュニケーションを取ることができた。授業研修には、ALT も参加し、講義だけでなく、演習を多く取り入れた内容を実施することで、実践的な指導力向上を図った。英語検定チャレンジ事業を利用する生徒の割合は、88.8%となり、生徒にも積極的にチャレンジする意識が定着し、年々増加傾向にある。		
令和7年度の課題	英語活動へ意欲的・主体的に取り組み、英語が好きになる授業づくりを研究するとともに、中学校の英語教育へスムーズに移行できるよう、小学校段階におけるジョリーフォニックスの指導を拡充する。また、中学校においては英語力向上のために、加東市独自のレッスンの効果的な活用や、「かとう英語ライセンス制度」の取組を充実させる。		

施策体系コード	I－(1)－④	担当課	学校教育課
施策	④情報教育の充実		
取組	取組1 児童生徒一人1台パソコンの活用 取組2 情報モラル教育の推進		
令和6年度の取組内容	ICTを活用した協働的な学び、個別最適な学びの推進に向けて、新たに導入した授業支援アプリ・学習アプリを活用するため、講師を招聘し、市内研修会や各学校での研修会を実施し、効果的な活用を進めた。 発達段階に応じた ICT 機器の活用、情報モラルの指導を小中連携して取り組むために、市の情報教育指導計画の見直しを行い、教職員へ周知した。		
令和6年度の取組成果	各校に配置された ICT 支援員による導入アプリの操作方法及び効果的な活用について研修を行うとともに、ICT 支援員とのチームティーチングにより、ICT を活用した授業実践に積極的に取り組むことができた。研究指定校においては、講師を招聘し、授業支援アプリ・学習アプリの効果的な活用について研修を行った。		

	市の情報教育指導計画をもとに、小中連携した計画的な指導を行うために、社・滝野・東条の各中学校区において、学校ごとの情報教育指導計画を作成した。
令和7年度の課題	I C Tを活用した協働的な学び、個別最適な学びを進めるため、研究指定校を指定し、学習アプリの効果的な学習について引き続き研究を行う。また、児童生徒の情報活用能力を高めたり、児童生徒が主体となったスマートフォンやSNS等の利用について、各学校の実態に応じた情報モラル学習を行ったりするなど、各校の情報教育指導計画に基づき、発達段階に応じて計画的に指導を行う。

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(1)－②		校内授業検討会を実施した1校あたりの回数 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(回)		5	5	25	25	25
実 績(回)	—	5	6	24	25.8	
施策体系コード I－(1)－③		英検検定料助成を利用した中学生の割合 (実用英語技能検定(英検))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		58.0	61.0	64.0	67.0	70.0
実 績(%)	55.3	57.3	68.2	86.2	88.8	
施策体系コード I－(1)－④		一人1台パソコンを活用した教科数 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値 (教科数)		全教科	全教科	全教科	全教科	全教科
実 績 (教科数)	—	全教科	全教科	全教科	全教科	

基本的方向（２）夢や志を持ち挑戦する力の育成

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（２）夢や志を持ち挑戦する力の育成				総合評価		B	
●将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		64.0	66.0	68.0	70.0	72.0	
実 績(%)	62.1	52.1	39.3	42.3	47.9		
達成状況		↘	↘	↑	↑		
●ふるさと学習を通じて、ふるさとを大切にしたいという気持ちが芽生えた児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小３、小４）							
年 度	基 準 値 (令和２年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		88.0	89.0	90.0	91.0	92.0	
実 績(%)	87.9	85.7	82.9	82.6	83.1		
達成状況		↘	↘	↘	↑		
●地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		21.0	24.0	26.0	28.0	30.0	
実 績(%)	18.1	36.9	24.2	32.9	29.4		
達成状況		☆	◎	◎	◎		
●難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しようとしている児童・生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (平成２９年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		35.0	37.0	39.0	42.0	45.0	
実 績(%)	32.6	28.7	21.4	28.7	29.6		
達成状況		↘	↘	↑	↑		

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－（２）－①	担当課	学校教育課
施 策	①キャリア教育の充実		
取 組	取組１ キャリア発達を促す取組の充実 取組２ 社会に触れる機会の充実		
令和６年度の 取組内容	「かとう夢授業」として、専門の外部講師を招聘し、プロフェッショナルの高度な技能を授業等に取り入れ、児童生徒の夢に向かう力を育む機会を拡充した。 トライやる・ウィークでは、生徒の希望に沿った事業所の確保に努め、登録事業所が増加した。事業所で５日間、体験活動を実施した。 キャリアノートを活用し、キャリアパスポートを小学校から中学校、高等学校へ引き継いだ。		
令和６年度の 取組成果	小学校の図画工作の授業では大学教授を、理科の授業では JAXA 関連団体の講師を招き、専門的な技能や知識に触れ、児童の興味関心を高めることができた。特に、理科では移動プラネタリウムの学習を増やし、さらに、親子学習として、手作り望遠鏡作成による親子星空観測会を行った。また、中学校では部活動においては、プロスポーツ選手等の招聘により、直接指導や講話を受けることで、技術の向上を実感し、生徒の可能性を広げることができた。 トライやる・ウィークでは、事業所の理解と協力により、人や社会とのつながりを再認識するとともに、今後の自分の生き方や働くことの意義について考えることができた。「働くことの大切さ、厳しさ、楽しさ」を感じた生徒の割合が８８．５％とやや上昇した。（Ｒ５年度 ８６．０％）		
令和７年度の 課 題	「かとう夢授業」については、引き続き、専門の外部講師を招聘し、プロフェッショナルの高度な技能を授業等に取り入れ、児童生徒の夢に向かう力を育む機会をつくる。 トライやる・ウィークでは、新規事業所の開拓に向け、地域と連携するとともに、事業所を介した活動により社会と主体的につながる機会を設定する。また、生徒への事前事後指導を計画的に実施し、より充実した事業所活動により、自分らしい生き方を考えるようにする。		

施策体系コード	I－（２）－②	担当課	学校教育課・小中一貫教育推進室
施 策	②ふるさと学習の推進		
取 組	取組１ ふるさと学習「かとう学」の実践 取組２ ゲストティーチャーの積極的活用		
令和６年度の 取組内容	ふるさと学習「かとう学」副読本を活用した「副読本活用事例集」を各校へ配布し、ふるさと学習を推進した。さらに、教員のニーズに応え、児童生徒がふるさとに愛着と誇りを持てるようにするために、令和８年度改訂を目指して「かとう学」副読本改訂委員会を立ち上げ、改訂作業を行った。		
令和６年度の 取組成果	ふるさと学習「かとう学」副読本を活用した「副読本活用事例集」を配布したことで、ほぼすべての教科で活用することができた。また、「かとう学」副読本改訂委員会では、兵庫教育大学副学長の吉水先生に監修としてご助言いただきながら、取材や編集作業を行い、掲載予定の半分程度の執筆に取り組むことができた。		
令和７年度の 課 題	令和８年度改訂版を発行するために、定期的に改訂委員会を開催し、取材や執筆活動の際の教員の疑問に早期に答えるだけでなく、進度の調整を行う。		

施策体系コード	I－(2)－③	担当課	学校教育課
施 策	③子どもの主体性・創造性を高める活動の充実		
取 組	取組1 縦と横のつながりを意識した交流		
	取組2 発達に応じた学校行事		
令和6年度の 取組内容	異学年やステージごとの交流活動が増え、児童生徒の主体性を生かした集会や学園生会活動が実施された。 社地域や滝野地域では、開校を見据え、自然学校や人権教育講演会、社会見学等を地域ごとに行い、学校間交流を行った。東条学園小中学校では、従前の交流に加えて、つながる平和学習を拡充し、第Ⅱ、Ⅲステージ対象の「平和の集い」を開催し、異学年交流を実施した。		
令和6年度の 取組成果	社地域の5小学校では、5校交流により、加東遺産めぐりや人権交流会に加えてレクリエーション大会やスポーツ交流など、体を動かす交流を共にすることで、他校への理解を深め、小中一貫校への意識を高めることができた。東条学園小中学校では、学校経営研究発表会において、「ステージミーティングを柱とした専門部活動の統制」をテーマに、9年間を見通した学園生会活動のあり方について、研究を深めることができた。また各ステージ間の交流を拡充し、おもちゃランド(2・7年)など、隣接ステージ以外の交流にも取り組んだ。ステージ制を意識した取り組みを行うことで、4年生、7年生、9年生のリーダーシップの育成を図り、体育祭や文化祭で発揮された。前期、後期の教職員が目標となる児童生徒像を具体的に意識した行事の指導支援ができるようになってきた。		
令和7年度の 課 題	学習や学校行事のねらいを再確認し、小中一貫校に向けて行事内容を精選する。 また、児童生徒の主体性を生かした取り組みや意見を取り入れた行事や異学年集会などを充実させる。 東条学園と同様、社学園においても、規模や実情に応じた交流、学校行事等を通じた学校の活性化に取り組んでいく。		

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(2)－②		かとう学副読本を活用した教科数 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値 (教科数)		全教科	全教科	全教科	全教科	全教科
実 績 (教科数)	—	9教科	9教科	10教科	10教科	
施策体系コード I－(2)－③		各ステージ間の交流回数 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(回)		3	3	3	3	3
実 績(回)	—	3	5	14	17	

基本的方向（３）「豊かな心」の育成

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（３）「豊かな心」の育成				総合評価		C	
●人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度		基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)			81.0	82.0	83.0	84.0	85.0
実 績(%)		80.3	75.3	71.0	71.9	69.9	
達成状況			↓	↓	↑	↓	
●自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度		基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)			46.0	47.0	48.0	49.0	50.0
実 績(%)		39.0	35.3	31.5	37.7	38.4	
達成状況			↓	↓	↑	↑	
●道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３） ※基準値は小６のみ							
年 度		基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)			54.0	58.0	62.0	66.0	70.0
実 績(%)		51.7	45.0	39.7	43.1	44.6	
達成状況			↓	↓	↑	↑	
●人が困っているときは、進んで助けたいと思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度		基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)			49.0	52.0	55.0	58.0	60.0
実 績(%)		46.0	55.6	51.5	53.7	52.1	
達成状況			☆	↓	↑	↓	

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－（３）－①	担当課	学校教育課
施 策	① 「豊かな心」を育む体験活動の充実		
取 組	取組１ 環境体験・自然体験・芸術体験活動の実施		
	取組２ 職業体験活動・ボランティア活動の実施		
令和６年度の 取組内容	自然と触れ合う体験型環境学習として、小学校３年生では、環境体験学習を小学校５年生では、４泊５日の自然学校を実施した。また、中学校１年生では、わくわくオーケストラ教室に参加し、芸術体験活動を行った。中学校２年生では、トライやる・ウィークを５日間、事業所等での社会活動を体験することができた。		
令和６年度の 取組成果	体験活動を通して、本物に触れる心、感動する心、生命に対する畏敬の念、共に生きる心、主体的に判断する力を培うことができた。また、トライやる・ウィークでは、働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを実感するとともに、自分の将来や進路について考えることができた。さらに、不登校生徒の一部も、事業所や周囲の支援により、活動に参加できた。		
令和７年度の 課 題	引き続き、体験活動の目標を明確にして、主体的に判断・行動し、問題を解決する力を育むプログラム等を検討する。また、児童生徒がこれまで取り組んできた体験活動を踏まえ、児童生徒の発達段階を見通したキャリア形成が図られるよう指導計画を作成する。 トライやる・ウィークでは、生徒が社会のルールやマナーの大切さを実感できる取組になるように支援するとともに、より多くの不登校生徒がトライやる・ウィークを契機として登校につながるよう、事前・事後指導を充実させる。		

施策体系コード	I－（３）－②	担当課	学校教育課
施 策	②道徳教育の充実		
取 組	取組１ 学校・家庭・地域と連携した道徳教育の推進		
	取組２ 道徳授業の充実		
令和６年度の 取組内容	全市立学校で道徳科の授業を家庭や地域に公開し、道徳科を通して子どもたちに培う道徳的価値観を共有した。また、参観後に保護者アンケートを実施し、身に付けてほしい内容を調査することで、目指す子ども像を共有した。 道徳教育実践研修への積極的な参加を呼びかけたり、兵庫教育大学と連携し校内研修の講師として招いたりして、授業のポイントや指導助言を受けることで、考える楽しさを創る道徳科の授業をめざすための指導の工夫について、教員の実践的な指導力向上を図った。		
令和６年度の 取組成果	学校における道徳教育について、アンケート結果から家庭や地域の９割を超える方々から道徳の授業に「満足している」（「やや満足している」を含む）という回答をいただいた。また、アンケートから得た保護者が願う「子供に身に付けてほしい力」を知り、共有することができた。 道徳科における深い学びを目指す道徳実践について、教材への向き合い方や授業づくりの基本など、教員のキャリアステージに応じた実践的な指導力の向上が図られた。また、招聘した講師より、授業のねらいや展開の仕方・板書計画や指導案の書き方など、詳しく助言をいただき、日々の指導に活かすことができた。		
令和７年度の 課 題	学校・家庭・地域が連携し一体となって子どもを育てるため、学校における道徳科の授業を広く公開し、その様子を積極的に発信する。 また主体的・対話的で深い学びを通して、自分自身のこととして考えを深められるようにするため、課題設定や発問などを工夫して、考える楽しさを創る道徳科の授業を目指し、大学とも連携し、教職員の授業実践力の向上を図る。		

施策体系コード	I－（３）－③	担当課	学校教育課
施 策	③人権教育の充実		
取 組	取組１ 発達段階に応じた人権教育の充実		
	取組２ 多様性を認め合う共生の心の育成		
	取組３ 自分や他者の人権を尊重する教育等の推進		
令和６年度の 取組内容	加東市立学校人権教育講演会を５会場で開催し、一人ひとりが、生命を大切に、自他の人格を尊重し、お互いの個性を認め合う心、他人の痛みが分かる心、他人を思いやる心、正義感や公正さを重んじる心など豊かな人間性を育成することをテーマに、小学５年生から中学３年生までが学びを深めた。 教職員を対象に実施した人権教育スキルアップ研修は、フィールドワークによる現地研修や、人権センター職員による講話研修を実施し、各校の人権教育担当者や経験の浅い教員を中心に、人権・同和問題の理解を深めた。 また、増加する外国人児童生徒の支援の充実を図るため、学校及び関係機関等が情報共有する連絡協議会を実施した。		
令和６年度の 取組成果	人権教育講演会後のアンケートでは約 95%の児童生徒が「人権に対する意識が深まった」（大変深まった、深まった）と回答し、人権課題の解決に向けた意識の変容や実践的な行動力の育成を図ることができた。 人権教育スキルアップ研修を通じて、多文化共生社会の生き方や同和問題についての教職員の関心や理解を、さらに深めることができた。 また、外国人児童生徒等支援連絡協議会で情報共有したことが、外国人児童生徒の支援や受入れに当たり、具体的かつ有益な支援につながられた。		
令和７年度の 課 題	学校及び関係機関等が連携して、定期的に連絡協議会を開催し情報共有することで、外国人児童生徒等が感じる生活上・学習上・進路選択上の困り感に寄り添い具体的な支援を講じる。 また、外部講師による人権教育講演会の開催を継続し、様々な人権課題について解決しようとする実践的な行動力を育成する。		

施策体系コード	I－（３）－④	担当課	学校教育課
施 策	④防災教育の充実		
取 組	取組１ 震災の教訓を風化させない、実践的な防災教育の推進		
	取組２ 助け合いやボランティア精神等共生の心の育成		
令和６年度の 取組内容	防災訓練では、休み時間や登下校等の授業時間以外での実施、負傷者への救助を取り入れた訓練等、様々な想定で防災訓練を行った。全ての学校において、３回以上の防災訓練を行い、１月１７日には、阪神淡路大震災や能登半島地震、身近な災害に関連する防災教育を実施した。各校の防災訓練の事例や防災教育について加東市防災教育推進連絡会議の中で共有し、加東市における防災教育を推進した。		
令和６年度の 取組成果	防災課と連携した加東市小中学校・自主防災組織合同防災訓練を実施し、自分の生命を守る主体的な行動を育む実践的な防災教育を推進できた。また、震災・学校支援チーム（EARTH 員）を活用し、専門家から防災について学ぶ機会をもつことができた。 １月１７日には、阪神淡路大震災や能登半島地震、身近な災害に関連する防災教育を実施し、助け合いやボランティア精神等の共生の心の育成に取り組んだ。		
令和７年度の 課 題	各校の実践事例を共有することで、様々な災害、場面想定等に対応したより実践的な防災訓練を実施できるよう工夫する。災害マニュアルを定期的に見直すことで、学校の防災体制を更に充実させる。また、社学園や東条学園における防災体制について市内で共有を図り、小中連携の観点からも教職員の防災意識の向上を図る。		

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(3)－①		自然学校において、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する力が 高まったと回答する学校の割合 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実 績(%)	88.9	87.5	75.0	87.5	100.0	
施策体系コード I－(3)－③		小中学校人権教育講演会後の児童生徒の人権について「大変深まった」と 回答した児童生徒の割合 (学校アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		53.0	54.0	55.0	56.0	57.0
実 績(%)	51.9	54.7	40.6	49.2	48.7	

基本的方向（４）「健やかな体」の育成

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（４）「健やかな体」の育成				総合評価		C	
●自主的に運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをする時間を持ちたいと思う児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		72.0	74.0	76.0	78.0	80.0	
実 績(%)	71.1	64.4	59.2	62.9	61.6		
達成状況		↓	↓	↑	↓		
●不安や悩みがあったときに、相談できる人がいる児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (令和2年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		94.0	96.0	98.0	99.0	100.0	
実 績(%)	92.3	90.7	89.5	91.7	92.7		
達成状況		↓	↓	↑	↑		
●朝食を毎日食べている児童生徒の割合 （児童生徒アンケート（市）対象：小６、中３）							
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	
目標値(%)		88.0	90.0	92.0	93.0	94.0	
実 績(%)	86.7	79.7	83.0	78.7	84.8		
達成状況		↓	↑	↓	↑		

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－（４）－①	担当課	学校教育課
施 策	① 体力・運動能力向上をめざす取組の充実		
取 組	取組１ 体力・運動能力の向上		
	取組２ 運動やスポーツの習慣化		
令和６年度の 取組内容	「加東市子どもの体力向上推進委員会」において、全国体力・運動能力調査の結果の経年比較したデータを分析し、加東市内の児童生徒は「柔軟性」に課題が見られることから、その改善に向けた取組をリーフレットにまとめ、教職員へ周知した。 小学校の体育授業ではＰＥ（体育）マスター派遣事業で社高等学校体育科生を、中学校の部活動では「かとう夢授業」でプロスポーツ選手やプロのトレーニングコーチ等を派遣し、運動の興味関心を高めるとともに、運動能力の向上を図った。 部活動指導においては、地域移行に向けた検討委員会を設置し協議を進めた。		
令和６年度の 取組成果	市全体で運動能力の課題を共有し、課題改善に向けた取組を周知することで、他校の実践を参考にしながら、各校の実情に応じて取組を充実させることができた。 ＰＥ（体育）マスター派遣事業では、個別のアドバイスを活かし、意欲的に自己の能力を高めようとする児童の姿が見られた。かとう夢授業では、高度な技術や指導に触れ、部活動へ取り組む意欲の向上につながった。		
令和７年度の 課 題	ＰＥ（体育）マスター派遣事業では、効果的な単元等で活用ができるようさらに研究を進めるとともに、かとう夢授業では対象の種目を広げ、多くの生徒の意欲向上につなげる。 部活動の地域移行（展開）に向けた検討委員会では、実証事業の検証をもとに、今後、段階的に地域移行（展開）を円滑に進められるようにする。地域や保護者、教職員の理解を得ながら、関係団体との調整や部活動指導員の増員を図る。		

施策体系コード	I－（４）－②	担当課	学校教育課
施 策	② 健康・安全教育の充実		
取 組	取組１ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の実施		
	取組２ 感染症予防のための正しい知識		
	取組３ 交通安全教室・防犯教室等を通じた安全意識の向上		
	取組４ 児童生徒のＳＯＳの出し方に関する教育等の推進		
令和６年度の 取組内容	身近に迫る薬物の危険性について深く学ぶため、薬物乱用防止教室を全市立学校で実施した。 加東警察署からの交通安全情報を各学校へ１３回発出して、安全意識の向上を図り、児童生徒及び教職員へ啓発を行った。また、不審者対応訓練を１４校で実施し、４，０１８名が参加した。 児童生徒アンケートの実施により、積極的に相談できるよう取り組むとともに、タブレットを活用した相談窓口や悩みを抱えた際の相談メッセージ、動画等をアップした。		
令和６年度の 取組成果	薬物乱用防止教室の実施については、小学校でも定着が図られ、早い段階で学習することで正しい知識と行動がとれ、誘惑に流されない学習ができた。 交通安全については、積極的な啓発、集団での登下校や見守り隊などの協力により、規範意識が身に付いてきている。不審者対応訓練により、危険から身を守る方法を学ぶことができた。 心の健康アプリの実証事業を３校で行った。児童生徒が相談できる体制が身近にあることを理解し、悩みを抱えた際に相談するきっかけとなった。		

令和7年度の課題	社会的課題でもある薬物乱用の防止について、主体的に学び考えられる児童生徒の育成を図る必要がある。 交通安全については、自転車の乗り方やヘルメットの確実な着用など、1人でも交通ルールを守り、正しい判断で行動できるようにする。 心の健康アプリの実証事業では、相談体制の拡充と一体として推進する必要があるため、継続して研究する。引き続き、悩んだときや困ったときに相談する問題対処力を身につけ、不登校児童生徒の支援につなげたい。
----------	---

施策体系コード	I－(4)－③	担当課	学校教育課、学校給食センター
施策	③ 食育の推進		
取組	取組1 地産地消による「楽しみのある学校給食特別メニュー」の提供		
	取組2 学校給食を活用した食育指導		
	取組3 「かとう和食の日」について啓発		
	取組4 学校給食センターでの体験学習		
	取組5 食育推進指定校による食育推進事業		
令和6年度の取組内容	子どもたちが食への関心を高め、魅力ある給食とするため、かとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」を月に1回実施した。 かとう和食の日において、学期ごとに和食給食に合わせた食育活動を実施した。 給食だより（月1回）や食育だより（学期ごと）を通して、食に関する情報を提供した。 小学校での PTCA 親子活動の一環とした、給食センター見学会の受入れを年4回実施した。		
令和6年度の取組成果	かとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」として、地産地消や郷土食、行事食を取り入れ、児童生徒に給食を通して知識を持ち、食べる楽しみを持たせる献立を心がけた。 かとう和食の日に、各学校で和食に関連した食育活動を実施し、日本の伝統的な食文化や食の大切さを考える機会となった。 給食だよりや食育だよりを通して、児童生徒やその保護者へ食に関する周知・啓発を行った。また、よく噛む食材を取り入れた「かみかみメニュー」を月1回から月複数回に増やし、給食を通して噛むことの大切さを学ぶ機会とした。 給食センター見学会では、小学1～2年生の親子活動の受入れをし、普段食べている給食を調理員が作っている様子の見学や栄養教諭の講話など、親子で学ぶ機会となった。		
令和7年度の課題	心身の健全な発達や食に関する正しい知識について、学校と給食センターが今後も連携しながら児童生徒や保護者に周知していく。 かとう夢プラン「楽しみのある学校給食特別メニュー」を継続して実施するほか、学校給食を生きた教材として効果的な食育を行い、魅力のある安全でおいしい学校給食の提供を継続していく。		

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(4)－①		毎日5分間以上、意識して体を動かしている児童生徒の割合(体育や部活動、登下校以外) (児童生徒アンケート(市)対象:小6、中3)				
年 度	基 準 値 (令和2年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		61.0	63.0	66.0	68.0	70.0
実 績(%)	58.7	48.4	47.9	49.0	45.3	
施策体系コード I－(4)－③		学校給食での加東市産食材の使用率 (副食(3品を対象))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		24.0	25.0	26.0	27.0	28.0
実 績(%)	23.0	25.1	25.3	25.8	19.3	
施策体系コード I－(4)－③		加東市産・兵庫県産食材を用いた年間献立率 (食材の内、献立に占める市産・県産の割合)				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		28.9	29.0	29.1	29.2	29.3
実 績(%)	25.0	25.7	25.1	22.3	20.0	

基本的方向（５）インクルーシブ教育の充実

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（５）インクルーシブ教育の充実		総合評価		A		
●児童生徒の自立割合（サポートファイルによる支援が不要になった児童生徒の割合） （市調査）						
年 度	基 準 値 （令和元年度）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値(%)		8.0	8.0	8.5	8.5	9.0
実 績(%)	7.5	7.0	6.1	10.9	10.7	
達成状況		↓	↓	☆	☆	
●市民対象講演会に対する参加者の内容理解度（４段階評価の平均値） （参加者アンケート（市））						
年 度	基 準 値 （令和元年度）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値 （平均値）		2.7	2.7	2.7	3.0	3.0
実 績 （平均値）	—	3.7	3.7	3.7	3.6	
達成状況		☆	☆	☆	☆	

２ 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－（５）－①	担当課	発達サポートセンター
施 策	① 教育相談の充実		
取 組	取組１ 相談事業		
令和６年度の 取組内容	個の特性に応じた支援を行うために、発達検査・知能検査や発達相談を実施した。また、市民が気軽に相談できる機会を設けた。 医師の発達相談を２２回、理学療法士の運動発達相談を４回、作業療法士の運動発達相談を４回、言語聴覚士の言語相談を８回、心理士の心理相談を１０回、発達検査を１０３回実施した。はぴあプラザを６回実施した。		
令和６年度の 取組成果	多職種による相談日を設け、支援の必要な方がその人らしく生活できるようにサポートすることができた。また、新規事業として、はぴあプラザを隔月で実施し、保護者が気軽に相談できる機会を設けた。		
令和７年度の 課 題	多職種の相談を受けることができるように相談日を確保する。		

施策体系コード	I－（５）－②	担当課	発達サポートセンター
施 策	② 支援体制の充実		
取 組	取組１ 療育事業		
	取組２ 巡回相談		
	取組３ 切れ目ない支援体制の確立		
	取組４ 現場での支援についての情報提供		

令和6年度の 取組内容	就学前の集団療育を2回、就学後の集団療育を4回実施した。 園や学校と連携し、センターの職員や専門家による巡回相談（個別園巡回相談15回、こども巡回相談38回、個別学校巡回相談1回、専門家派遣型教育相談14回）を行い、支援の必要な子どもに対しての支援方法について助言した。また、家庭と関係機関が情報を共有し、一貫した支援を進めるためサポートファイルの作成を促した。 発達障害の基礎的な内容について、市民対象の研修を2回、園・学校職員対象の研修を5回開催した。
令和6年度の 取組成果	こどもの様子についてお悩みの保護者を対象としたこども巡回相談を新規事業として実施し、個の特性に合わせた支援・対応について保護者・園・センターの職員間で共有した。
令和7年度の 課 題	それぞれの取組について、より保護者のニーズに沿った事業内容を検討していく。

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(5)－①		発達サポートセンターへの相談延べ件数 (市調査)				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(件)		2,100	2,100	2,150	2,150	2,200
実 績(件)	2,022	1,896	1,927	2,156	2,265	

基本的方向（６）幼児教育の充実

１ 成果指標による達成状況

基本的方向（６）幼児教育の充実			総合評価		A		
●教育の機会の提供　３～５歳児の待機児童数 （保育所等利用待機児童数調査）							
年　度		基　準　値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値 (人)	３歳児		0	0	0	0	0
	４歳児		0	0	0	0	0
	５歳児		0	0	0	0	0
実績 (人)	３歳児	1	0	0	0	0	
	４歳児	0	0	0	0	0	
	５歳児	0	0	0	0	0	
達成状況			◎	◎	◎	◎	
●保育士等キャリアアップ研修への参加者が、保育実践に役立つと回答した割合 （保育士等キャリアアップ研修参加者アンケート（市））							
年　度		基　準　値 (令和元年度)	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値（％）			90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実　績（％）		—	72.0	97.0	97.0	99.5	
達成状況			—	◎	◎	◎	

2 施策ごとの取組評価

施策体系コード	I－(6)－①	担当課	こども教育課
施 策	① 就学前教育・保育の提供体制の確保		
取 組	取組1 公立認定こども園等の再編		
	取組2 私立保育所・認定こども園の拡充		
	取組3 就学前教育・保育の質の向上		
令和6年度の 取組内容	令和7年4月からの公立認定こども園、保育所の統合に向けて、公立3園の交流保育の実施や保護者説明会を開催するとともに、組織体制や定員等について協議・調整を行うなど統合後の円滑な運営に向けて準備を進めた。 保育士等の確保に向けて、引き続き保育士等就業支援事業を実施した。 保育士・保育教諭等を対象とした「保育士等キャリアアップ研修」を6日間（30時間）開催した。		
令和6年度の 取組成果	公立3園における交流保育の実施や保護者説明会の開催により、保護者の不安軽減につながったほか、交流保育を通して園児が交流を深め、成長につながった。また、統合後の組織体制や定員等の協議・調整により、入所希望が多い0歳児と1歳児の定員を拡充することを決定した。 保育士等就業支援事業を実施し、保育士等を確保することで、幼児教育・保育環境の充実につなげた。 「保育士等キャリアアップ研修」を実施することで、教育・保育の質の向上が図れた。（参加者 253 人）		
令和7年度の 課 題	社地域小中一貫校の開校と同時に公立3園を統合し、職員を効率的に配置することにより、多様化する保育ニーズに適切に対応し、質の高い幼児教育・保育を提供する。 教育・保育の受け皿の拡充を図るため、保育士等の確保に向けた取組を継続して行うとともに、0歳児から2歳児を受け入れる小規模保育事業所の開設に向けた準備を進める。 保育士・保育教諭等を対象とした「保育士等キャリアアップ研修」を引き続き実施し、幼児教育・保育の質の向上を図るとともに、幼小連携事業の実施による教職員、保育教諭の相互連携・接続について意識を高め理解を深める。		

施策体系コード	I－(6)－②	担当課	こども教育課
施 策	② 思いやりの心を育む幼児期の教育の充実		
取 組	取組1 幼児期からの人権教育		
	取組2 人権教育実践者の養成		
令和6年度の 取組内容	幼児期の「やさしさ」や「思いやり」といった心を育む、「違いを違いと思わない」絶対人権感覚を培うための「人権啓発プログラム」を活用し、幼児期人権教育親子セミナーを市内認定こども園等で実施した。（2園） 保育士・保育教諭を対象に幼児期人権教育の実践者を養成するため、指導者養成セミナーを開催した。（1回）		
令和6年度の 取組成果	幼児期人権教育親子セミナーに参加した5歳児の親子 50 組へのアンケートによる満足度は100%で、親子で絶対人権感覚を培った。 指導者養成セミナーの受講者が「人権啓発プログラム」を園内で実践し、幼児期の「やさしさ」や「思いやり」の心を育むことができた。（15園）		
令和7年度の 課 題	指導者としての資質を高めるとともに、幼児期に絶対人権感覚を培うため、引き続き、「人権啓発プログラム」を実施する必要がある。		

3 取組指標の達成状況

施策体系コード I－(6)－①		保育士等キャリアアップ研修の延参加者数 (保育士等キャリアアップ研修参加者アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(人)		280	280	280	280	280
実 績(人)	282	310	230	237	253	
施策体系コード I－(6)－①		保育士等キャリアアップ研修開催時間 (保育士等キャリアアップ研修参加者アンケート(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値 (時間)		30	30	30	30	30
実 績 (時間)	30	30	30	30	30	
施策体系コード I－(6)－②		「人権啓発プログラム」受講者数(親子) (幼児期人権教育実施状況調査(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(組)		66	66	66	66	66
実 績(組)	66	27	58	65	50	
施策体系コード I－(6)－②		「人権啓発プログラム」実施施設の割合 (幼児期人権教育実施状況調査(市))				
年 度	基 準 値 (令和元年度)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)		50.0	50.0	60.0	60.0	70.0
実 績(%)	20.0	46.0	86.7	100	100	